

# 「退職」は社会との新たな関わりの始まり 「学び直し」により、新たな目標が生まれた

団塊世代を中心としたシニア層は、新たな生きがいを求めるステージへ突入している。今回は「学び直し」のために、70歳で退職し、「立教セカンドステージ大学」に通う関澤恵子さんにお話を伺った。（取材／高橋 牧子）

## 人生を豊かにするために 学びたい

「私は海外旅行によく行くのですが、西洋史や日本史、語学を勉強していれば、もっと充実した旅ができ、豊かな人生が送れる…と、知識や情報の大切さを痛感していました。元々学ぶことが好きで『学び直しのチャンスがうかがっていました。友人が『立教セカンドステージ大学』に通っていたという事もあり、シニア層でも学べる大学を調べ、本格的な学びの場であるこの学校で学ぶことを決めました」



関澤恵子さん（於：立教大学池袋キャンパス）



立教大学「モリス館」の前で

### 入学試験は、課題エッセイの事前

提出と面接試験があり、本科を修了するには二年間で学して必修科目と選択科目の合計18単位以上の修得が必要だ。趣味関心事の延長上にあるオープンカレッジや短期講座とは一味違う、体系化された学びの場だ。ここでは、「エイジング社会の教養科目群」「コミュニケーションとビジネス科目群」「セカンドステージ設計科目群」で構成されており、受講生が『学びたい』と思うような魅力ある講座が開講されている。

### 歴史ある赤レンガ造りの 建物の下、 キャンパスライフを楽しむ

「50歳以上の年齢・職業・立場も全く違うみんなが、学生気分です通っています。同じ志をもつ者同士、フラットな関係でディスカッションができ、受講生同士の交流も深まります。授業はとても楽しく、みんな真面目に熱心に受けています。時には先生方が、社会経験豊富な私たち受講生を前に緊張する場面もあるという話を聞きました。」

### 年間を通しての行事も多くあ

り、清里での夏合宿のキャンプファイヤー、冬のクリスマスパーティーなど、日常では体験できない楽しい思い出ができました。委員会や同好会活動も盛んで、私は『ウクレレ合唱団』と『茶の湯同好会』に入っています。得意な人が教えるスタイルなので、和気あいあいとして仲間意識も生まれます」

3月の修了も目前。先生方の論文の書き方組み立て方などの指導の下、『21世紀の病 認知症』というテーマで修了論文を書き上げたという。4月からは、本科修了者対象の専攻科に進む予定だとか。

### 「立教セカンドステージ大学 ユネスコクラブ」の設立

ユネスコとは、諸国民の教育・科学・文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。彼女がかねてから「ユネスコ活動」に興味を持ち、大学を通じて何らかのかたちで携わる道を探った。他の大学では、ユネスコクラブが発足され活動し

ているのを知り、「立教セカンドステージ大学ユネスコクラブ」の立ち上げを考えた。学校側の承認や賛同者を集めることを目標に活動を始めて、ようやく大学側の承認を受けるまでに至った。

「玉川大学やICU等、既に活躍中の大学内のユネスコクラブがあります。そこで、ここでの受講生・修了生の皆様を対象に『立教セカンドステージ大学ユネスコクラブ』の設立を呼び掛けた結果、活動が開始できる迄になりました。途上国の識字率向上に向けて『世界寺子屋運動』の研究支援として、募金活動やチャリティーの企画、世界遺産や地域遺産の学習や見学、ユネスコ協会関連の講演会参加など、活動内容は多岐にわたっています」

社会貢献や地域貢献を念頭にしたこの活動には、既に20名の会員が集まり、立教大学に縁のある江戸川乱歩の孫にあたる「しまユネスコ協会」の会長にも賛同を得ているそう。世界を視野に向けて発進・躍動を続ける彼女。夢はまだまだ終わらない。